

## 6.本時の目標

「どちらがいくつおおい」「かずのちがいは」などの表現と、ブロック操作を結び付けて考える活動を通して、比較の場面も減法であることに気づき、式に表して答えを求めることができる。

## 7.本時の展開（5/9）

|        | ねらい  | 学習活動  | 教師の動き  |
|--------|--|---|--|
| つかむ    | <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の振り返りができる。</li> <li>場面を把握できる。</li> </ul>  | <p><b>1. 前時の振り返りをする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「いくつおおい」のもんだいは、ぶろつくをぺあにして、ぺあにしたぶろつくをとって、こたえをかんがえたね。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の場面や式を、掲示を用いて想起させる。</li> </ul>  |
| 気づく    | <ul style="list-style-type: none"> <li>課題を理解できる。</li> </ul>  | <p><b>2. 問題を確認する。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>おとこのこが8にん、おんなのこが3にんいます。どちらがなんにんおおいでしょう。</p> </div> <p><b>3. 課題を確認する。</b></p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px;"> <p>どちらがいくつおおいか、しきとこたえをかんがえよう。</p> </div>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>前時と違って、「どちらが」も自分で見つける必要があることに気づかせる。</li> <li>男子の数、女子の数をわかりやすく板書し、男子の数が多いことに気づかせる。</li> <li>式を考えさせるのではなく、ブロックをどのように置くと、答えが求められそうか考えさせる。</li> </ul> |
| 考える    | <ul style="list-style-type: none"> <li>ブロックの置き方を考えることができる。</li> </ul>  | <p><b>4. 見通しを持つ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>きょうは、どちらがおおいか、もかんがえてこたえるんだ。</li> <li>ぶろつくをどうやっておくといいかな。</li> <li>せんとうをそろえて、2れつにならべたら、どちらがなんにんおおいか、わかりそうだ。</li> </ul> <p><b>5. ひとりチャレンジをする。(ブロック操作)</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まず、8と3があります。つぎに、ぺあになった3をとりまです。だから、こたえは5です。</p> </div>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>先頭をそろえて1対1対応で並べることができたか、見届ける。</li> <li>「まず、8と3があります。」まで全員で言って、その続きを自分で考えて言わせ、答えまで見つけさせる。</li> </ul>   |
| たしかにする | <ul style="list-style-type: none"> <li>順序言葉を使いながら、ブロック操作ができる。</li> <li>ブロック操作を式に結び付けられる。</li> <li>「どちらがいくつおおいか」「かずのちがいは」のときは、両方もひき算でやることがわかる。</li> <li>大きい数から小さい数を引くことがわかる。</li> </ul> | <p><b>6. ペアチャレンジをする。(ブロック操作)</b></p> <p><b>7. 全体交流をする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペアになった3をとると、おとこのこがなんにんおおいかわかるね。しきは8-3だね。</li> </ul> <p><b>8. あと一問やる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「かずのちがいは」のときも、ペアになったブロックをとればできるね。7をとるんだから、しきは9-7だね。</li> </ul> <p><b>9. まとめをする。</b></p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px;"> <p>「どちらがいくつおおいか」「かずのちがいは」のときも、ひきざんでできる。どちらがおおいかさいしょにかんがえ、おおいいかずからちがいかずをひくと、こたえがでる。</p> </div> <p><b>10. 練習問題をやる。</b></p> <p>先生問題に答える（絵カード）。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>「かずのちがいは」という言葉も、「いくつおおいか」と聞かれているのと同じであることを確認する。</li> <li>絵カード問題で「どちらがいくつおおいか」「かずのちがいは」問題をやり、本時の習熟を図る。</li> </ul>                                  |
|        |  |   | <p>評価基準</p> <p>(技) 比較の場面について、減法の式に表して、答えを求めることができる。</p>  |



|      | 1   | 2   | 3  | 4   |
|------|---|---|--|---|
| ねらい  | <p>減少の場面について、ブロックを取り去る操作を行う活動を通して、減法の意味を理解し、数字や記号を用いて減法の式に表すことができる。</p> <p style="text-align: center;">減少場面の理解</p> <p>(場面→ブロック→式)</p>   | <p>「あげる」「とんでいく」などの言葉とブロック操作を結び付けて考える活動を通して、減少場面の減法であることに気づき、式に表して答えを求めることができる。</p> <p style="text-align: center;">減少場面の立式</p> <p>(場面→式の予想→ブロック→式)</p>   | <p>減少の問題をつくる活動を通して、減法の式と絵をみて、はじめにいくつあって、いくつ減らすかとらえ、お話問題をつくることができる。</p> <p style="text-align: center;">減少場面の作問</p> <p>(式→ブロック→場面)</p>   | <p>比較の場面について、比較するものをそれぞれブロックに置き換えて対応させる操作活動を通して、「ちがいが「のこり」として表されることに気づき、減法の意味を理解し、数字や記号を用いて減法の式に表して答えを求めることができる。(場面→ブロック→式)</p>   |
| 学習活動 | <p>1. 前時の振り返りをする。</p> <p>2. 問題を確認する。</p> <p>のこりはなんびきになるでしょう。</p> <p>3. 課題を確認する。</p> <p>のこりはいくつか、ブロックでおはなしをしよう。</p> <p>4. 見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まず、つぎに、だからをつかって、どうやってうごかすといいかな。</li> </ul> <p>5. ひとりチャレンジをする。(ブロック操作)</p> <p>6. ペアチャレンジをする。(ブロック操作)</p> <p>7. 全体交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ぶろっくをとると、のこりはいくつかわかるね。</li> <li>5-2=3とあらわすんだね。</li> </ul> <p>8. まとめをする。</p> <p>「のこりはいくつ」は、ぶろっくをとるとわかる。とると、こたえがわかることをひきざんという。</p> <p>9. 練習問題をする。</p> | <p>1. 前時の振り返りをする。</p> <p>2. 問題を確認する。</p> <p>のこりはいくつになるでしょう。ひきざんのしきとこたえをかいてこたえましょう。</p> <p>3. 課題を確認する。</p> <p>のこりはいくつになるか、しきとこたえをかきがえよう。</p> <p>4. 見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どんなしきになるのかな。7-3? 3-7?</li> </ul> <p>5. ひとりチャレンジをする。(ブロック操作)</p> <p>6. ペアチャレンジをする。(ブロック操作)</p> <p>7. 全体交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3ぶろっくをとったから、7-3とあらわすんだ。</li> </ul> <p>8. あと2問やる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あげると、とんでいくと、たべました、のときは、ぶろっくをとるからひきざんなんだね。</li> </ul> <p>9. まとめをする。</p> <p>はじめにあったかずから、とるかずをひくと、こたえがでる。</p> <p>10. 練習問題をする。</p> | <p>1. 前時の振り返りをする。</p> <p>2. 問題を確認する。</p> <p>えをみて、7-4のしきになるおはなしをつくりましょう。</p> <p>3. 課題を確認する。</p> <p>おはなしもんだいをつくらう。</p> <p>4. 見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>きょうは、しきをおはなしにするんだね。</li> <li>ブロックでまずやってみよう。</li> </ul> <p>5. ひとりチャレンジをする。(ブロック操作)</p> <p>6. ペアチャレンジをする。(ブロック操作)</p> <p>7. 全体交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ぶろっくを4とったから、□にはいるのは4だね。のこり(こたえ)は3だね。</li> </ul> <p>8. まとめをする。</p> <p>はじめにあったかずととるかずをはつきりさせて、ひきざんのことばをつかうと、もんだいができる。</p> <p>9. 練習問題をする。</p> | <p>1. 前時の振り返りをする。</p> <p style="text-align: center;">比較場面の理解</p> <p>2. 問題を確認する。</p> <p>あかいきんぎょは、くろいきんぎょよりなんびきおおいでしょう。</p> <p>3. 課題を確認する。</p> <p>いくつおおいか、ブロックでおはなしをしよう。</p> <p>4. 見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かずをくらべるときは、手をつなぐ、せんでつなぐ、ならべるというやりかたがあったなあ。</li> </ul> <p>5. ひとりチャレンジをする。(ブロック操作)</p> <p>6. ペアチャレンジをする。(ブロック操作)</p> <p>7. 全体交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5ひきはおなじ。あかが2ひきおおいね。</li> <li>7からペアができた5をとればいいんだね。ひきざんでできるんだね。しきは7-5だね。</li> </ul> <p>8. あと1問やる。</p> <p>9. まとめをする。10. 練習問題をする。</p> <p>「いくつおおい」は、ペアになったぶろっくをとるので、ひきざんでできる。</p> |
| 評価基準 | <p>【関】減法が用いられている場面を知ることに関心をもつことができる。</p> <p>【知】減少の場面について減法を用いることや、式の表し方が分かる。</p>  | <p>【知】ブロックの操作から減少の意味を理解し、減法の式に表すことができる。</p>   | <p>【技】減法の式と絵を見て、減少の場面をとらえ、減少の問題を作ることができる。</p>  | <p>【関】減法が用いられている場面を知ることに関心をもつことができる。</p> <p>【知】比較の場面について減法を用いることや、式の表し方が分かる。</p>  |

|      | 5 本時   | 6  | 7  | 8   |
|------|--|--|--|---|
| ねらい  | 「どちらがいくつおおい」「かずのちがいは」などの表現と、ブロック操作を結びつけて考える活動を通して、比較の場面も減法であることに気づき、式に表して答えを求めることができる。(場面→ブロック→式)  | 比較の問題をつくる活動を通して、減法の式と絵をみて、お話問題をつくること<br>(式→ブロック→場面)<br>比較場面の作問   | ひき算の計算カードを使って練習し、10以下の数から1位数をひく減法の計算が確実にできるようにする。また答えが同じになるカード集めをすることができる。   | ボーリングゲームで倒れなかったペットボトルの数を求める活動を通して、0を含む減法の式の意味がわかり、立式して計算することができる。(場面→式)   |
| 学習活動 | <p>1. 前時の振り返りをする。 比較場面の立式</p> <p>2. 問題を確認する。</p> <p>おとこのこが8にん、おんなのこが3にんいます。どちらがなんにんおおいでしょう。</p> <p>3. 課題を確認する。</p> <p>どちらがいくつおおいか、しきとこたえをかんがえよう。</p> <p>4. 見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きょうは、どちらがおおいかもこたえるんだ。</li> <li>・ぶろっくをどうやっておくといいかな。</li> </ul> <p>5. ひとりチャレンジをする。(ブロック操作)</p> <p>6. ペアチャレンジをする。(ブロック操作)</p> <p>7. 全体交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアになった3をとると、おとこのこがなんにんおおいかわかるね。しきは、<math>8-3</math>だね。</li> </ul> <p>8. あと1問やる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「かずのちがいは」のときも、ペアになったブロックをとればできるね。しきは、<math>9-7</math>だね。</li> </ul> <p>9. まとめをする。10. 練習問題をする。</p> <p>「どちらがいくつおおいか」「かずのちがいは」のときも、ひきざんでできる。</p> | <p>1. 前時の振り返りをする。</p> <p>2. 問題を確認する。</p> <p>えをみて、<math>6-3</math>のしきになるおはなしをつくりましょう。</p> <p>3. 課題を確認する。</p> <p>おはなしもんだいをつくろう。</p> <p>4. 見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きょうは、しきをおはなしにするんだね。</li> <li>・ブロックでまずやってみよう。</li> </ul> <p>5. ひとりチャレンジをする。(ブロック操作)</p> <p>6. ペアチャレンジをする。(ブロック操作)</p> <p>7. 全体交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアになった3つのブロックをとったよ。おおきほうのかずは6で、ねこのかず。ちいさいほうのかずは3で、いぬのかずだね。</li> </ul> <p>8. まとめをする。</p> <p>おおきいかずと、ちいさいかずをはつきりさせて、ひきざんのことばをつかうと、もんだいができる。</p> <p>9. 練習問題をする。</p> | <p>1. 前時の振り返りをする。</p> <p>2. 問題を確認する。</p> <p>カードをつかって、ひきざんのれんしゅうをしましょう。</p> <p>3. 課題を確認する。</p> <p>けいさんかあどのひみつをみつけよう。</p> <p>4. 見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たしざんのときは…</li> </ul> <p>5. ひとりチャレンジをする。</p> <p>6. ペアチャレンジをする。</p> <p>7. 答えが同じになるカード集めをする。(グループチャレンジ)</p> <p>8. 全体交流する。順序よく並んだカードを見て、気づいたことを発表する。</p> <p>9. まとめをする。</p> <p>こたえがおなじになるカードがいくつもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おなじこたえのカードは、ななめにならんでいる。</li> </ul> | <p>1. 前時の振り返りをする。</p> <p>2. 問題を確認する。</p> <p>のこりはなんぼんでしょう。</p> <p>3. 課題を確認する。</p> <p>たおれなかったぺつとぼとるのかずを、しきをかいてしらべよう。</p> <p>4. 見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめのかずから、とるかず(たおれたかず)をひけば、たおれなかったかずがでるかな。</li> </ul> <p>5. ひとりチャレンジをする。</p> <p>6. ペアチャレンジをする。</p> <p>7. 全体交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3ぼんたおれたときは、<math>3-3=0</math>だね。</li> <li>・いっぽんもたおれないときは、<math>3-0=3</math>だね。</li> </ul> <p>8. まとめをする。</p> <p>けっかをしきであらわすと、たおれたかず、たおれなかったかずがよくわかる。</p> <p><math>3-3=0</math> <math>3-0=3</math>というしきになる。</p> |
| 評価基準 | 【技】比較の場面について、減法の式に表して、答えを求めることができる。  | 【技】減法の式と絵を見て、比較の場面をとらえ、比較の問題を作ることができる。   | 【技】10以下の数から1位数をひく減法の計算が正しくできる。【知】答えが同じ減法の計算は、いろいろあることがわかる。   | 【考】これまでの減法の意味をもとに、0を含む減法の意味をとらえる。<br>【知】0を含む減法の式の意味がわかる。  |

|      |   |
|------|---|
|      | 9   |
| ねらい  | <p>いろいろな問題場面を読み取る活動を通して、具体的な場面でどんな計算になるかを考えて、加法、減法の演算決定をし、立式して計算で答えを求めることができる。(場面→式)</p>  |
| 学習活動 | <p><b>1. 前時の振り返りをする。</b></p> <p><b>2. 問題を確認する。</b></p> <p>りすが4ひきいます。3ひきくると、ぜんぶでなんびきになるでしょう。</p> <p><b>3. 課題を確認する。</b></p> <p>たしざんかひきざんかかんがえて、しきをかいて、けいさんでこたえをもとめよう。</p> <p><b>4. 見通しを持つ。</b></p> <p>・ぜんぶで、だから…。</p> <p><b>5. ひとりチャレンジをする。(立式)</b></p> <p><b>6. ペアチャレンジをする。(立式)</b></p> <p><b>7. 全体交流をする。</b></p> <p><b>8. あと2問やる。</b></p> <p>・だいじなことばにきつくと、たしざんかひきざん<br/>わかるね。</p> <p><b>9. まとめをする。</b></p> <p>だいじなことばをもとに、たしざんか、ひきざんか、かんがえてしきをたてるとこたえがでる。</p> <p><b>10. 練習問題をする。</b></p> |
| 評価基準 | <p>【考】場面や数量の関係をとらえ、正しく演算決定することができる。</p> <p>【技】加法や減法を適用し、立式して計算で答えをもとめることができる。</p>   |